（別紙）

兵庫県保育大会表彰受賞者一覧

分野	取組概要	被表彰者
食育・アレルギー対応	毎月の献立（おやつ）に、全国の郷土おにぎりを入れる。郷土おにぎりの日は、幼児クラス（３～５歳児）が、自分で自分の食べるおにぎりを握る活動をする。 また、子どもたちに興味を持ってもらえるように、日本地図を大きな壁面にした「おにぎりマップ」を作成。毎回、今日食べるおにぎりはどの地域のものかを給食職員から紹介したり、どんな具材を使っているのか実際に触ってみるなど、食への興味をより持てるよう工夫した。 家庭向けの発信として、毎月発行している給食だよりに今月のおにぎりのレシピを載せ、保護者にも取り組みを知ってもらうように努めた。家庭で作る保護者もいて、給食室と保護者の会話が広がった。給食職員も保育に主体的に携わることを意識し、保育士と両輪となり取り組みを進めた。	社会福祉法人あひる福祉会 第二あひる保育園 （宝塚市）
障害児保育	子どもの遊びや生活の様子に加えて、子どもたちの絵画表現の記録を重ね合わせて記録・観察することで、子どもの発達をより多面的に理解し、個々に添った支援の質の向上に取り組んでいる。 保育者が記録を取り、その支援を可視化（文章化）することにより、保育者のスキルアップに繋がり、また園全体で考え合うことで保育者同士の共通理解や連携が生まれ、チームワークに繋がっていく。 近年、社会的・発達的に特別な配慮を要する子どもが増加傾向にある中、この取り組みにより、職員は多面的に幼児理解を深めることができ、きめ細やかな対応や職員間の連携を可能とする効果にも繋がっている。	社会福祉法人えびす福祉会 幼保連携型　えびす認定こども園 （三木市）

食育・アレルギー対応	園に保健センターや給食センターの栄養士の方に来てもらい、５歳児とその保護者を対象に、バランスよく食べる事が身体を成長させ、元気に動けるという内容を三大栄養素の話を交えながら伝え、毎日の献立の写真や給食メニューの栄養素を分かりやすく掲示した。 その後、５歳児の当番活動として、給食に入っている食材を三大栄養素に分けてボードに貼ることを行った結果、メニューの中にバランスよく栄養素が含まれていることが一目で分かるようになった。 食に関する理解やより良い食生活についての学びの機会となるとともに、多様な食材について知ることができたことで、苦手な食材にも挑戦する姿がみられるようになった。	社会福祉法人サルビア会 サルビアこども園 （福崎町）
保護者支援・子育て支援	少人数だからこそできる取組を考え、子どもの誕生月に半日じっくり保育参観・参加してもらう誕生月参観を開始。取組２年目からは給食参観にも拡充しつつ、誕生月では毎年同じ月になるため、３年目からは保護者の希望月に来てもらえるように発展させてきた。 保護者には、参観だけでなく、絵本の読み聞かせや給食の配膳などを体験しながら半日過ごしてもらい、保育者の仕事を知ってもらう機会となっている。 クラスごとに保護者１人の参加となり、オープン保育などにより保育者の負担が軽減され、保護者には、保育者と子どもたちの自然なかかわりを感じてもらったり、担任と話をする機会になっている。 参観を通して子どもの成長を感じとり、園の保育・教育への理解につながるとともに、保護者と保育者のつながりを深める良い機会となっている。	養父市立 養父こども園 （養父市）